

2014年
8月16日(土) 17日(日) 18日(月)

国際シンポジウム
カンムリウミスズメと上関の生物多様性
— “奇跡の海”を未来の子どもたちへ —

山口

Yamaguchi

8/16(土) 13:00 ▶ 16:00

山口県立図書館 レクチャールーム

京都

Kyoto

8/17(日) 13:00 ▶ 16:00

京都大学農学部 総合館1F 大会議室

東京

Tokyo

8/18(月) 14:00 ▶ 17:00

衆議院第一議員会館B1F 大会議室

かつて瀬戸内海は白砂青松の美しい海でした。そして人々は豊かな海や山の幸の恵みを受けながら暮らしていました。しかし1960年代からの工業開発によって、山は削られ、海は埋め立てられ、ほとんどの地域でかつての姿を見ることは出来なくなりました。その中で上関周辺は開発から免れ、“瀬戸内の原風景”を残しています。

ここでは他の地域では激減している世界最小のクジラのスナメリ(ワシントン条約保護動物)が群れ泳ぎ、清浄な砂堆のみに生息するナメクジウオ(水産庁危急種)が繁殖しています。

そればかりでなく、上関の長島でしか見つかっていないナガシマツボ(環境省絶滅危惧I類)や、減少著しいカラスバト(IUCN/準絶滅危惧)など世界的に希少な生物の生息地として注目を浴びており、“奇跡の海”と称されています。

さらに2008年からの海鳥調査で国際的な保護鳥であるカンムリウミスズメ(IUCN/危急種)の世界で唯一の周年生息域であることや、オオミズナギドリ瀬戸内海で唯一の繁殖地であることも明らかになりつつあります。

ところが、2011年の福島第一原発事故を経た今も、この海への原子力発電所建設計画が中止されていません。私たちは(1)建設用地の造成を目的とした埋め立てによって希少な生物が生息場所を失ってしまうこと、(2)温排水や放射能汚染で貴重な生物の生息環境が失われてしまうことを懸念しています。

本シンポジウムではカンムリウミスズメをはじめとする貴重な海鳥の生態や上関の生物多様性について学び、“奇跡の海”を未来の子どもたちに遺すため、私たちに何ができるかを考えたいと思います。

Coordinator コーディネーター

- 山口会場：安溪 遊地 (山口県立大学 国際文化学部)
- 京都会場：加藤 真 (京都大学大学院 人間・環境学研究所)
- 東京会場：野間 直彦 (滋賀県立大学 環境科学部)

Panelist パネリスト

- Kim Neison (オレゴン州立大学 水産・野生生物学研究教職員/野生生物生態学者)
- 武石 全慈 (北九州市立自然史歴史博物館)
- Derrell Whitworth (カリフォルニア環境研究所/野生生物生態学者)
- 渡辺 伸一 (福山大学生命工学部)
- 高島 美登里 (上関の自然を守る会)

Commentator コメンテーター

- 山口会場：佐藤 正典 (鹿児島大学大学院 理工学研究科)
- 京都会場：向井 宏 (北海道大学名誉教授)
- 東京会場：Paul R. Kelly (前アメリカ政府魚類野生生物保護局カリフォルニア部門)

入場料：¥500

※本シンポジウムのプログラムは日本語通訳ありです

後援：日本鳥学会/日本生態学会自然保護専門委員会

日本ベントス学会自然環境保全委員会/日本自然保護協会

日本環境法律家連盟/ラムサール・ネットワーク日本/環瀬戸内海会議

高木仁三郎市民科学基金

お問い合わせ

e-mail midori.t@crocus.ocn.ne.jp/heigun.yo@gmail.com

Tel 090-8995-8799 Fax 0820-62-0710

Access アクセス

山口会場

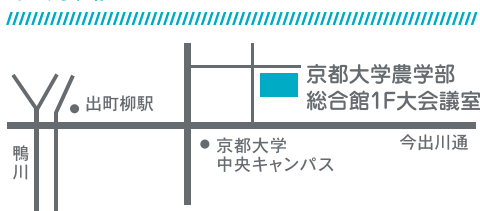
山口駅より徒歩20分



Yamaguchi

京都会場

バス停「京大農学部前」または「北白川」下車すぐ



Kyoto

東京会場

国会議事堂前駅より徒歩5分、溜池山王駅より徒歩8分



Tokyo